

第4学年 国語科書写学習指導案

平成17年2月1日(火)第5校時

指導者 小野 浩之

1. 単 元 文字の中心と画と画の間かく、点画のせし方、交わり方・方向
題材「馬」「外国」

2. 目 標

- 自分のめあてを決め、めあてに沿った練習方法を選び、進んで学習に取り組むことができる。
- 自分や友だちの伸びやよさを見つけ、認め合うことができる。
- 文字の中心や画と画との間かく、点画のせし方、交わり方・方向など4年生で学習したことに気をつけて、「馬」や「外国」の字形を整えて正しくていねいに書くことができる。

3. 指導計画

第1時・・・文字の中心や画と画の間かく、点画のせし方、交わり方・方向を理解して、自分のめあてを持つ。

第2時・・・自分のめあてに沿った練習方法を選び、ていねいに書く。(本時)

第3時・・・学習したことを生かして、硬筆でも字形に気をつけてていねいに書く。

4. 指導上の立場

- 第4学年の毛筆書写指導のねらいは「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方に注意しながら、文字の形を整えて書く」ことが主なねらいである。本単元の題材である「馬」と「外国」は、4年生の毛筆書写のまとめとして取り上げたものである。中でも文字の中心や画と画との間かく点画のせし方、交わり方・方向を考えながら「①」や「②」「③」の筆使いを学習するために取り上げた。

- 本学級の児童26名のうち多くの児童は書写の授業は「とても楽しい」または「楽しい」と感じている。また「自分のがんばりたいことを決めて一生けん命練習しているか」の問いにはほとんどの児童が「できている」または「だいたいできている」と答えている。このことから意欲的、積極的に書写の学習に取り組んでいこうとする児童が多くいることがわかる。その一方で「正しい筆順で書いているか」や「文字を練習したあと、自分や友だちの上手になったところを見つけることができたか」の問いには「できていない」「あまりできていない」と答えた児童が多くいた。

- そこで本題材を指導することにより、この1年間で学習した事からのうち、特に文字の中心や画と画の間かく、点画のせし方、交わり方・方向に気をつけて書くことを想起させて、「馬」か「外国」のどちらかを選びていねいに練習し、よりよく書けるようになった喜びを味わわせたい。また「たしかめカード」を使用することにより、自分の伸びや友だちの良いところにも気づくようにして、達成感や満足感を味わわせたい。

- 本校の研究主題「学びの構えと学力の向上を図るための支援～書くことに喜びをもつ書写学習をめざして～」に迫るために、児童が書くことを楽しんで学習できるように学習過程を工夫した。まず、手本の文字を、はね、折れ、筆脈などについて分析的に見る。時には、物差しを当てたり、補助線を引いたりして基準について話し合う。そして分析した手本と自分の試し書きとを比較することで、自分のめあてを見つけやすくする。次に、個々のめあてをもとにグループを作り、より効果的な練習方法について話し合ったり、互いのよさや伸びを伝え合ったりして、より意欲的に練習ができるようにする。本時では、各自がめあてに沿った練習をするための手だてとして、練習用紙を準備する。さらに個に応じ

た多様な練習の場として、水書板コーナーや分解文字コーナーなどを設置しておく。また、たしかめカードや付せん紙を用意して自分のめあてをより意識しやすくしたり、自分や友だちのよかったところを見つけやすくしたりすることで、書くことや上達することの喜びを味わわせ、テーマに迫りたい。

5. 本時案(第2時)

目 標		学 習 活 動		教 師 の 支 援	準備物
		○ 文字の中心や画と画の間かく、点画のせし方、交わり方・方向に気をつけて、自分のめあてにそった練習を行い、「馬」または「外国」のどちらかを選び、正しくていねいに書くことができる。		○ 自分や友だちの作品のよさや伸びを見つけることができる。	
つ か む	1．学習のめあてを確かめる。	○ 前時に決めためあてを発表することにより、自分のめあてを意識して取り組むことができるようにする。			・手本の分析表
		○ 前時につかんだ手本の分析表を掲示することで学習したことを想起し、「馬」や「外国」の字形を整えるポイントを確認できるようにする。			
	文字の中心や画と画との間かく、点画のせし方、交わり方・方向に気をつけて、ていねいに書こう				
す す め る	2．練習をする	○ 自分のめあてに沿った練習ができるようにいくつかの練習の場を設定したり、練習用紙を準備したりする。 ・練習用紙は自由に取れるように置いておく。 ・水書板コーナーや分解文字コーナーを設置して自由に使えるようにしておく。			練習用紙 ・かご字 ・骨書き ・外形 ・透明シート 練習コーナー ・水書板 ・分解文字
		○ どんな練習方法を選んでよいか迷っている児童やめあてに沿った練習ができていない児童には、相談に乗ったり、助言したりする。			
ま と	3．まとめ書きをする。	○ 互いに声をかけ合ったり、助言し合ったりしている児童を称揚して、より意欲的に練習ができるようにする。			付せん紙
	4．評価をする	○ 机間指導により伸びが認められる児童や一生けん命練習している児童を称揚する。			
	3．まとめ書きをする。	○ 自分のめあてを確認することで、めあてを意識したまとめ書きができるようにする。			
	4．評価をする	○ 試し書きとまとめ書きを比べてみて、よくなったところを見つけるようにする。			
		○ 友だちの作品を見て、その作品のよさや上達ぶりを見つけて、発表したり、付せん紙に書き			

め る		て交換したりしたりする。そうすることで互いの伸びや上達ぶりを認め合い，満足感や喜びを味わうことができるようにする。 ○ 試し書きとまとめ書きの作品をいくつか掲示してよさや伸びを紹介することで，がんばったことを認められる喜びを味わわせたい。 ○ たしかめカードや付せん紙に記入することで，自分や友だちの伸びをより実感しやすくすることができるようにする。 ○ 本時のまとめとして，たしかめカードに記入して，次時への意欲が持てるようにする。	たしかめ カード
--------	--	--	-------------